

仏教Life

at 築地本願寺

聴講
無料

心豊かに生きる道のりをより多くの方々へ

浄土真宗のみ教えを依りどころとし、心豊かに生きてゆくことについて
参加者の皆さまと一緒に考え、学ぶ機会とさせていただければと思います

本講座に参加いただくには、築地本願寺倶楽部への入会が必要になります

第1回

2019(令和元)年

9月23日(月・祝)

15:00~16:30



浄土へ往き生まれるいのちを生きる

桑原 昭信(くわはら あきのぶ)
宗学院研究員。文学博士。

第2回

2019(令和元)年

12月25日(水)

15:00~16:30



いのちを拓くことばに遇う

武田 一真(たけだ かずま)
宗学院研究員。文学博士。

第3回

2020(令和2)年

3月20日(金・祝)

15:00~16:30



願いに生かされる

四夷 法顕(しい のりあき)
宗学院研究員。文学博士。

会場

浄土真宗本願寺派 築地本願寺内
インフォメーションセンター 1階多目的ルーム
〒104-8435 東京都中央区築地3-15-1
※東京メトロ 日比谷線「築地」駅 出口すぐ

お申し込み方法

築地本願寺倶楽部

検索

WEB、またはコンタクトセンター「0120-792-048」より
お申し込みください。



築地本願寺倶楽部

築地本願寺倶楽部は、「開かれたお寺」を目指す「寺と」プロジェクトの一環として、皆さまに役立つサービスをワンストップでご提供できるように作られた、「会費が無料」の倶楽部です。築地本願寺倶楽部は、新しいスタイルのお墓や人生サポートなどお寺の役割を皆さまと繋がるカタチに変えてお届けします。



寺と PROJECT

第1回

2019(令和元)年

9月23日(月・祝)

15:00~16:30

仏教LIFE 浄土へ往き生まれるいのちを生きる

講師 桑原 昭信(くわはら あきのぶ)

1982年生。龍谷大学大学院文学研究科博士後期課程修了。文学博士。現在、浄土真宗本願寺派宗学院研究員、龍谷大学アジア仏教文化研究センター博士研究員、大阪大谷大学非常勤講師などをつとめている。

概要

お釈迦様や親鸞聖人が生涯をかけてお説きになられた教えは、真実を真実としていただくことができるようになるための教えです。ですから、そこには人生を楽に上手く生きていくための方法は説かれていません。また、その教えを知識として理解しようとするだけでは、ほんの入り口に立ったに過ぎないとも言われます。しかし、一度その教えを「我が事」としていただくことができたならば、自ずとその教えの真意が明らかとなってまいります。

今日ではあらゆる物事に対して「他人事」という意識が顕著であり、自身のいのちの行く末すらも例外ではないようです。そこで、秋のお彼岸に際し、改めて我が事としてその教えと向き合い人生の依るべきところの確かさを、共にお聞かせいただきます。

第2回

2019(令和元)年

12月25日(水)

15:00~16:30

仏教LIFE いのちを拓くことばに会う

講師 武田 一真(たけだ かずま)

1973年生。龍谷大学大学院文学研究科博士後期課程修了。文学博士。現在、浄土真宗本願寺派龍仙寺(広島県)住職、浄土真宗本願寺派宗学院研究員などをつとめている。

概要

尊いものとして、あなたは「いのち」に出会えていますか。

仏教では、尊いいのちというものが在るとは考えません。むしろお釈迦さまは、いのちを「迷っているもの」として見つけ、生きることの苦しみをこえてゆく道を説かれました。尊いいのちというものを掲げるのではなく、いのちという出来事に、わたしが尊い意味を見出しているかを問う。それが仏教という生き方なのですね。そして、ままたらないこの「いのち」を開拓し、今この時に豊かな意味を与えくださることば、それこそが仏さまの教えだと言えるでしょう。あなたは今、どのように「いのち」と出会っていますか。いのちを拓く仏さまのことばを、ともに仰いでみませんか。

第3回

2020(令和2)年

3月20日(金・祝)

15:00~16:30

仏教LIFE 願いに生かされる

講師 四夷 法顕(しい のりあき)

1985年生。龍谷大学大学院文学研究科博士後期課程修了。文学博士。現在、浄土真宗本願寺派信行寺(兵庫県)住職、浄土真宗本願寺派宗学院研究員、龍谷大学非常勤講師などをつとめている。

概要

一般には目に見えるものが確かで、目に見えないものは不確かであると考えられがちです。しかし、お釈迦さまが「諸行無常」と説かれたように、仏教では私たちが見ているものこそ不確かな存在であると考えます。一方、「願い」は目に見えませんが、確かに私へ届けられているものです。人間関係に疲れた時、自分や家族が大きな病気になった時、身近な方が亡くなった時、これまで確かだと思い、たよりにしていたものが崩れていく時がおとずれます。その時、皆さまは何を支えとして生きていかれるでしょうか。

浄土真宗は阿弥陀如来の「願い」の上に成り立つ仏道です。その「願い」を聞いていく時、私のいのちを根底から支えてくださっている存在に気づきます。

春彼岸のお中日というこの日、先だって往かれた方々をご縁として、仏さまの「願い」と一緒に耳を傾けてみませんか？